

項目別取りまとめ表(案)(期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの)

期中評価実施地区名	関東並借局 昭和38年度契約地	
契約生産数・面積及び植栽面積	1111株 契約面積 5,478ha (会津・新渡地区 1,997ha、会津・新渡地区以外 3,480ha) 植栽面積 1,412ha マツ 978ha、ヒノキ 782ha、カラマツ 692ha、その他 823ha	
森林状況の概況	管内の森林は、昭和38年度調査の結果、森林の整備が著しく進んでいる。特に、山間部及び山村の森林は、整備が著しく進んでいる。また、山間部及び山村の森林は、整備が著しく進んでいる。	未立木の割合は、近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内外の割合は、昭和38年度調査の結果、森林の整備が著しく進んでいる。特に、山間部及び山村の森林は、整備が著しく進んでいる。
公益的施設からの重要性及び整備状況	管内の森林は、昭和38年度調査の結果、森林の整備が著しく進んでいる。特に、山間部及び山村の森林は、整備が著しく進んでいる。	当該契約面積のうち55%が存在している。
森林調査地(注1)	調査地 平均樹高 平均胸高直径 平均密度 平均生育量(%) スギ 16.8m 23.0cm 333m ² 19% ヒノキ 14.6m 21.7cm 261m ² 12% マツ 17.1m 24.1cm 244m ² 22% カラマツ 19.2m 22.3cm 258m ² 5% 計 15% 1% 1% 16%	不 良
事業の進捗状況(関東)	平均樹高及び平均胸高直径の数は、サンプリング調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。	広葉樹化の割合は16%である。
森林調査地(注2)	調査地 生育状況 広葉樹化 普通 良 計 スギ 4% 55% 3% 100% ヒノキ 3% 32% 2% 100% マツ 1% 23% 2% 100% カラマツ 17% 83% 17% 100% その他 計 3% 82% 12% 15% 100%	(注)生育状況の基加 良好：植栽木の1ha当たり成長率が限生立木数(森林国営林校における平均成長率)を上回っているもの。 普通：植栽木の1ha当たり成長率が限生立木数(森林国営林校における平均成長率)と同程度のもの。 不良：植栽木の1ha当たり成長率が限生立木数(森林国営林校における平均成長率)を下回っているもの。

事業コスト削減の可能性	伐間伐等に当たっては、契約相手方方の理解を得るなかで通木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に運用したた強度な間伐等）することによりコスト削減を図る。
景觀への配慮	適切な森林整備の契機として、人工林の景観として良好な状態の維持を図る。なお、作業道開設等において、景観と景観との調和を図る。
関係者の意見・意向	周辺の草刈作業の計画を要望している。

(注1) 森林調査計画は、概ねIV階級以上の遅林地を対象として詳細な森林調査を実施された森林
 (注2) 森林調査結果は、遅林地を対象としたIV階級の遅林地であることを示す。
 (注3) 森林調査結果は、遅林地を対象としたIV階級の遅林地であることを示す。
 (注4) 森林調査結果は、遅林地を対象としたIV階級の遅林地であることを示す。

留意事項

事業実施地区の林分	<p>当該地区の遅林地を対象とする事業は、遅林地を対象としたIV階級の遅林地であることを示す。</p> <p>当該地区の遅林地を対象とする事業は、遅林地を対象としたIV階級の遅林地であることを示す。</p> <p>当該地区の遅林地を対象とする事業は、遅林地を対象としたIV階級の遅林地であることを示す。</p> <p>当該地区の遅林地を対象とする事業は、遅林地を対象としたIV階級の遅林地であることを示す。</p> <p>当該地区の遅林地を対象とする事業は、遅林地を対象としたIV階級の遅林地であることを示す。</p>
-----------	---

過去の契約地の事業実績や評価検証内容を参考にし、適切な伐間伐率を定める。

事業の進捗状況 (会津・新郷地区)	森林調査地 (注1)	生育状況 (面積比率: 90%) (注1)	平均樹高	平均胸高直径	幹1ha当り	不良		
						広葉樹化	生育遅れ (注1)	計
						21%		21%
						11%	32%	43%
						計	18%	8%

平均樹高及び平均胸高直径の數値は、サンプル調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。

広葉樹化しすぎた林分の生育が遅れている原因は、生育が遅れた林分及び植栽の生育が遅れている原因は、植栽の遅れによるものと思われる。

事業の進捗状況 (会津・新郷地区)	森林調査地 (注2)	生育状況 (面積比率: 10%) (注1)	平均樹高	平均胸高直径	幹1ha当り	不良		
						広葉樹化	生育遅れ (注1)	計
						92%		100%
						100%	100%	100%
						計	9%	100%

(注) 生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以上であるが、樹高が胸高限界本数で以下同じ。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以下であるが、樹高が胸高限界本数以上であるが、樹高が胸高限界本数以下である。
不良：(a) ~ (c) は生育遅れ、(d) は広葉樹化に区分。
(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以上であるが、樹高が胸高限界本数以下であるが、樹高が胸高限界本数以下である。
(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以下であるが、樹高が胸高限界本数以下である。
(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以下であるが、樹高が胸高限界本数以下である。
(d) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以下であるが、樹高が胸高限界本数以下である。

事業の進捗状況 (会津・新郷地区以外)	森林調査地 (注1)	生育状況 (面積比率: 77%) (注1)	平均樹高	平均胸高直径	幹1ha当り	不良		
						広葉樹化	生育遅れ (注1)	計
						9%		9%
						4%		4%
						計	11%	11%

平均樹高及び平均胸高直径の數値は、サンプル調査した結果に基づき主林木のみの推計値である。

広葉樹化しすぎた林分は1%であり、生育が遅れている林分は36%と最も多い。

事業の進捗状況 (会津・新郷地区以外)	森林調査地 (注2)	生育状況 (面積比率: 22%) (注1)	平均樹高	平均胸高直径	幹1ha当り	不良		
						広葉樹化	生育遅れ (注1)	計
						79%	21%	100%
						5%	7%	100%
						計	2%	100%

(注) 生育状況の基準
良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以上であるが、樹高が胸高限界本数で以下同じ。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以下であるが、樹高が胸高限界本数以上であるが、樹高が胸高限界本数以下である。
不良：(a) ~ (c) は生育遅れ、(d) は広葉樹化に区分。
(a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以上であるが、樹高が胸高限界本数以下であるが、樹高が胸高限界本数以下である。
(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以下であるが、樹高が胸高限界本数以下である。
(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以下であるが、樹高が胸高限界本数以下である。
(d) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立木数以下であるが、樹高が胸高限界本数以下である。

樹種別に不良の割合をみると、マツで100%、椴で7%である。

事業コスト削減の可能性	間伐に当たっては、契約相手方の理解を得るなかで運木及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐率を最大限に低下しししたたき成る間伐等）することによりコスト削減を図る。
景観への配慮	適度な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等において景観と調和する間伐材等木材を引用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。また、周辺の山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。また、周辺の山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。

(注1) 森林調査は、概ねIV路線以上の造林地を対象として詳細な調査を実施されたい。また、周辺の山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。
(注2) 森林調査は、概ねIV路線以上の造林地を対象として詳細な調査を実施されたい。また、周辺の山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。
(注3) 森林調査は、概ねIV路線以上の造林地を対象として詳細な調査を実施されたい。また、周辺の山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。
(注4) 森林調査は、概ねIV路線以上の造林地を対象として詳細な調査を実施されたい。また、周辺の山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。

留意事項	
期中評価実施地区の林分について	<p>・ 当該地区の林分は、概ねIV路線以上の造林地を対象として詳細な調査を実施されたい。また、周辺の山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。</p> <p>・ 当該地区の林分は、概ねIV路線以上の造林地を対象として詳細な調査を実施されたい。また、周辺の山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。</p> <p>・ 当該地区の林分は、概ねIV路線以上の造林地を対象として詳細な調査を実施されたい。また、周辺の山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。</p> <p>・ 当該地区の林分は、概ねIV路線以上の造林地を対象として詳細な調査を実施されたい。また、周辺の山林地を調査し、詳細な調査を実施されたい。</p>

事業の進捗状況	調査地	生育状況 (面積比率)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha株数	不良						
							広葉樹化	生育遅れ					
事業の進捗状況 (会津、新潟地区)	森林調査未済地 (注1)	広葉樹林化ししたたの生林 広葉樹林化ししたたの生林 広葉樹林化ししたたの生林 広葉樹林化ししたたの生林 広葉樹林化ししたたの生林	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha株数	普通	6%					
							スギ	21.0cm	291㎡	6%			
							ヒノキ	18.8cm	304㎡				
							マツ	18.6cm	202㎡	38%			
							カラマツ	22.4cm	248㎡	9%			
計			7%		7%								
平均樹高及び平均胸高直径の數値は、サンブル調査した結果に基づき主木木のみの推計値である。													
事業の進捗状況 (会津、新新潟地区)	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha株数	普通	61%	10%	29%	39%	100%	
							スギ	21.0cm	291㎡	6%			
							ヒノキ	18.8cm	304㎡				
							マツ	18.6cm	202㎡	38%			
							カラマツ	22.4cm	248㎡	9%			
計			7%				7%						
生育状況の基調 良好：植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数が1.2倍未満であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。以下同じ。 普通：植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.2倍以上1.5倍未満であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。 不良：(a)植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.5倍以上であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。(b)植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.5倍以上であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。(c)植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.5倍以上であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。(d)植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.5倍以上であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。(e)植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.5倍以上であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。													
事業の進捗状況 (会津、新新潟地区以外)	森林調査未済地 (注1)	生育状況 (面積比率)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha株数	普通	17%	16%	31%	38%	36%	
							スギ	21.0cm	308㎡	17%			
							ヒノキ	18.8cm	238㎡	16%			
							マツ	17.1cm	156㎡	7%	31%		
							カラマツ	20.8cm	206㎡	38%			
計			3%				36%						
平均樹高及び平均胸高直径の數値は、サンブル調査した結果に基づき主木木のみの推計値である。													
事業の進捗状況 (会津、新新潟地区以外)	森林調査未済地 (注2)	生育状況 (面積比率)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	平均1ha株数	普通	100%	2%	25%	37%	100%	
							スギ	21.0cm	291㎡	6%			
							ヒノキ	18.8cm	304㎡				
							マツ	18.6cm	202㎡	38%			
							カラマツ	22.4cm	248㎡	9%			
計			7%				7%						
生育状況の基調 良好：植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数が1.2倍未満であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。以下同じ。 普通：植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.2倍以上1.5倍未満であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。 不良：(a)植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.5倍以上であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。(b)植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.5倍以上であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。(c)植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.5倍以上であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。(d)植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.5倍以上であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。(e)植栽木の1ha当たり成立木数が現存立木本数の1.5倍以上であるが、樹高が周辺の平均樹高に近づく傾向がある。													

事業コスト範囲の可能性	間伐に当たっては、契約相手方方の理解を得るなかで選不及び間伐手法を工夫（列状間伐や間伐器を最大限に適用した途度など）することによりコスト削減を図る。
景観への配慮	道沿いな森林整備の表層により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等において景観と調和する間伐材等木材を同様の生責を用いた工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向	周辺の平均的な山林と同様の生責をしており、所在地町村及び関係団体への期待が大ききく、引き継ぎを要している。

(注1) 森林調査は、概ねIV等級地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。
 (注2) 森林調査は、概ねIV等級地を、改種等による若齢林として詳細な森林調査が実施された森林。
 (注3) 森林調査は、概ねIV等級地を、改種等による若齢林として詳細な森林調査が実施された森林。
 (注4) 森林調査は、概ねIV等級地を、改種等による若齢林として詳細な森林調査が実施された森林。

留意事項

期中評価実施地区の林分について	・ 間伐の間伐高を考慮し、間伐の面積を確保することにより、間伐の効果が最大限に発揮されるように留意する。 ・ 間伐の間伐高を考慮し、間伐の面積を確保することにより、間伐の効果が最大限に発揮されるように留意する。
-----------------	--

事業の進捗状況 (会津・新潟地区)	森林調査地 (注1)	生育状況 (面積比率: 98%) (注1)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	株数/ha	不 良	
							広葉樹化	生育遅れ (注4)
			スギ	12.1m	16.6cm	213	6%	計
			マツ	10.4m	12.6cm	163	7%	27%
			計				5%	9%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づき主幹木のみの推計値である。

広葉樹化しただた原因は、生育が遅れている林分は9%である。広葉樹化しただた原因は、生育が遅れている林分は9%と大半を占める。

事業の進捗状況 (会津・新潟地区)	森林調査地 (注2)	生育状況 (面積比率: 2%) (注2)	樹種	生育状況			計
				普通	広葉樹化	不良	
			スギ				
			ヒノキ				
			マツ				
			カラマツ				
			その他の種				
			計	100%	100%	100%	100%

(注)生育状況の基準

良幹：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。
不良：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。
広葉樹化：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。
生育遅れ：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。
計：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。

樹種別に不良の割合をみると、スギで100%、雑種計で100%である。

事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査地 (注1)	生育状況 (面積比率: 81%) (注1)	樹種	平均樹高	平均胸高直径	株数/ha	不 良	
							広葉樹化	生育遅れ (注4)
			スギ	16.3m	26.6cm	332	3%	計
			ヒノキ	13.1m	18.6cm	238	15%	15%
			マツ	14.9m	21.1cm	215	29%	29%
			カラマツ	15.2m	17.7cm	183	7%	7%
			計				11%	11%

平均樹高及び平均胸高直径の数値は、サンプル調査した結果に基づき主幹木のみの推計値である。

広葉樹化しただた原因は、生育が遅れている林分は11%と最も多い。

事業の進捗状況 (会津・新潟地区以外)	森林調査地 (注2)	生育状況 (面積比率: 19%) (注2)	樹種	生育状況			計
				普通	広葉樹化	不良	
			スギ	100%			100%
			ヒノキ	37%	5%	2%	7%
			マツ	36%	100%	100%	100%
			カラマツ				
			その他の種				
			計	59%	5%	2%	7%

(注)生育状況の基準

良幹：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。
不良：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。
広葉樹化：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。
生育遅れ：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。
計：植栽木の1ha当たり成立木数が該林分が生育立木数(植栽木数)を超過しているもの。

樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで7%、マツで100%、雑種計で7%である。

事業コスト削減の可能性	伐間伐等) については、契約相手方方の理解を得るなかで避不及び間伐手法を工夫(列状間伐や間伐率を最大限に適用したた強
長賜への配慮	道切なな素観と調和する間伐材等木材をより、人工林の長観として良好な地域景観の形成に寄与してている。なお、作業道開設等において
住民等の意見・意向	馬淵の平均的な山系と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き

(注1) 森林調査は、概ねIV級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

(注2) 森林調査は、概ねIV級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

(注3) 森林調査は、概ねIV級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

(注4) 森林調査は、概ねIV級以上の造林地を対象として詳細な森林調査が実施された森林。

事項	留意事項
<p>・ 伐間伐等) については、契約相手方方の理解を得るなかで避不及び間伐手法を工夫(列状間伐や間伐率を最大限に適用したた強</p> <p>・ 道切なな素観と調和する間伐材等木材をより、人工林の長観として良好な地域景観の形成に寄与してている。なお、作業道開設等において</p> <p>・ 馬淵の平均的な山系と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き</p>	<p>・ 伐間伐等) については、契約相手方方の理解を得るなかで避不及び間伐手法を工夫(列状間伐や間伐率を最大限に適用したた強</p> <p>・ 道切なな素観と調和する間伐材等木材をより、人工林の長観として良好な地域景観の形成に寄与してている。なお、作業道開設等において</p> <p>・ 馬淵の平均的な山系と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き</p>

項目別取りまとめ表(案)(期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの)

期中評価実施地区名	関東整備局 昭和58年度契約地				
	契約件数21件	契約面積494ha(会津・新潟地区73ha、会津・新潟地区以外421ha)			
森林・林業情勢、農山の状況、その他の変化	植栽面積 (うち会津・新潟地区)	スギ 128ha ヒノキ 192ha カラマツ 8ha その他 4ha - ha - ha			
公益的機能からの重要な及び貢献度、関連公共施設の整備状況	間東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、係管林内外は不明であるものの、現在なお14万6千ha程度存在し、引き続き森林育成が必要である。 間東整備局管内の保安林以外、引き続き森林割合については、減少傾向にある。 間東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約2割を占めており、また、そのうち約5割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha~10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は6割程度である。 間東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は全体的に引き続き大きい。 天竜川水系治理ダム、酒匂川水系三俣ダム等に属する流域(集水区域)内に当該契約面積のうち47%が存在している。 簡易水道等の水道施設に係る流域(集水区域)内に当該契約面積のうち21%が存在している。	間東整備局管内の都道府県における民有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、係管林内外は不明であるものの、現在なお14万6千ha程度存在し、引き続き森林育成が必要である。 間東整備局管内の保安林以外、引き続き森林割合については、減少傾向にある。 間東整備局管内の都道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約2割を占めており、また、そのうち約5割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha~10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は6割程度である。 間東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的主体による人工造林面積の占める割合は全体的に引き続き大きい。			
事業(農林)の進捗状況	生育状況	(注)生育状況の悪化 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が標準成立本数(森林経営保険における標準別標準成立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を越えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が標準成立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下1.2倍以下のもの。 不良：(a)~(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が標準成立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.3倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が標準成立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下であるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が標準成立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した部分のもの。 (広葉樹等の発生天然性樹木が過半を占める部分)			
	樹種	計			
	スギ	84%	100%		
	ヒノキ	92%	100%		
	カラマツ	100%	100%		
	その他	100%	100%		
	計	5%	4%	5%	100%
	樹種別に不良の割合をみると、スギで10%、ヒノキで3%、カラマツで5%である。				

<p>事業の進捗状況(新築地区)</p>	<p>生育状況</p>	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="4">生育状況</th> </tr> <tr> <th>良</th> <th>普通</th> <th>広葉樹化</th> <th>不良</th> </tr> <tr> <td>スギ</td> <td></td> <td>72%</td> <td>12%</td> <td>16%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>76%</td> <td>10%</td> <td>14%</td> </tr> </table> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで28%、耐種計で24%である。</p>	樹種	生育状況				良	普通	広葉樹化	不良	スギ		72%	12%	16%	ヒノキ					マツ		100%			カラマツ					その他					計		76%	10%	14%	<p>(注)生育状況の調査 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、以下同じ。以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(e)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分</p>
樹種	生育状況																																									
	良	普通	広葉樹化	不良																																						
スギ		72%	12%	16%																																						
ヒノキ																																										
マツ		100%																																								
カラマツ																																										
その他																																										
計		76%	10%	14%																																						
<p>事業の進捗状況(新築地区以外)</p>	<p>生育状況</p>	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="4">生育状況</th> </tr> <tr> <th>良</th> <th>普通</th> <th>広葉樹化</th> <th>不良</th> </tr> <tr> <td>スギ</td> <td>10%</td> <td>90%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>5%</td> <td>93%</td> <td></td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>マツ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6%</td> <td>92%</td> <td></td> <td>2%</td> </tr> </table> <p>樹種別に不良の割合をみると、ヒノキで2%、耐種計で2%である。</p>	樹種	生育状況				良	普通	広葉樹化	不良	スギ	10%	90%			ヒノキ	5%	93%		2%	マツ					カラマツ		100%			その他					計	6%	92%		2%	<p>(注)生育状況の調査 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(e)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (a) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分</p>
樹種	生育状況																																									
	良	普通	広葉樹化	不良																																						
スギ	10%	90%																																								
ヒノキ	5%	93%		2%																																						
マツ																																										
カラマツ		100%																																								
その他																																										
計	6%	92%		2%																																						
<p>事業コスト削減の可能</p>	<p>今後の除伐に当たっては、遅期に実施することや種樹木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、許広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。 また、夜打に当たっては、生育及び撥出条件の良好な箇所に厳選し、三伐を想定して選定して選入することによりコスト削減を図る。</p>																																									
<p>景観への配慮</p>	<p>適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。</p>																																									
<p>関係者の意見・意向</p>	<p>周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き遅期作業の計画的な実施を要望している。</p>																																									

備 意 事 項	
<p>期中評価実施地区の林分についての対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見るとき、植栽木が間伐に生育しつつある林分がほとんどであり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水廻りかん養施設の発掘を図っていく。 ・ なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分の生育については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど計画的な間伐等の実施を図る。 ・ 伐打については、生育状況のよい区域へ重点化する等によりコスト削減を図る。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考に、適切な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

期中評価実施地区名	関東整備局 昭和63年委託約地																																								
<p>契約件数・面積及び 植栽面積</p>	<p>契約件数52件 契約面積1,091ha（会津・新潟地区198ha、会津・新潟地区以外893ha） 植栽面積 スギ 347ha ヒノキ 227ha カラマツ 51ha その他 1ha （うち会津・新潟地区 116ha - ha - ha）</p>																																								
<p>森林・林業増進、農山村の状況、その他の社会情勢の変化</p>	<p>関東整備局管内の都道府県における私有林のうち未立木地の面積は近年ほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内以外は不明であるものの、現在なお14万6千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 関東整備局管内の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 約2割を占めており、また、そのうち約5割は県外在住者が全里立均を上回っているもの、面積は5割程度である。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林面積割合をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているもの、面積は5割程度である。 関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林整備整備センター等の公約主体による人工造林面積の占める割合は全面的な比喩であるものの、増加傾向にあり、公約主体の果たす役割は引き続き大きい。</p>																																								
<p>公営的機能からの重要 性及び貢献度、関連公 共施設の整備状況</p>	<p>利根川水系須田ダム、天龍川水系船形ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち46%が存在している。 利根川水系須田ダム、天龍川水系船形ダム等に係る流域（集水区域）内に当該契約面積のうち30%が存在している。</p>																																								
<p>事（便 業の 進歩 状況）</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">樹種</th> <th colspan="4">生育状況</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>長</th> <th>普通</th> <th>広葉 樹化</th> <th>不生 生育 遅れ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スギ</td> <td>8%</td> <td>85%</td> <td></td> <td>7%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>ヒノキ</td> <td>22%</td> <td>67%</td> <td>2%</td> <td>9%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>カラマツ</td> <td></td> <td>69%</td> <td></td> <td>31%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>100%</td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>12%</td> <td>78%</td> <td>1%</td> <td>9%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>樹種別に不良の割合をみると、スギで7%、ヒノキ11%、カラマツで31%、樹種計で10%である。</p>	樹種	生育状況				計	長	普通	広葉 樹化	不生 生育 遅れ	スギ	8%	85%		7%	100%	ヒノキ	22%	67%	2%	9%	100%	カラマツ		69%		31%	100%	その他		100%			100%	計	12%	78%	1%	9%	100%
樹種	生育状況				計																																				
	長	普通	広葉 樹化	不生 生育 遅れ																																					
スギ	8%	85%		7%	100%																																				
ヒノキ	22%	67%	2%	9%	100%																																				
カラマツ		69%		31%	100%																																				
その他		100%			100%																																				
計	12%	78%	1%	9%	100%																																				

(注)生育状況の基期

良材：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（新林国営林における節数別区分における節数別区分が生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分
(a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。
(広葉樹等の後生天然更新木が植栽を占める割合)

事業(会津・新渡戸地区)	生育状況	樹種	生育状況			
			良	普通	広葉樹化	不良
		スギ		99%		1%
		ヒノキ				
		マツ				
		カラマツ				
		その他				
		計		99%		1%
		樹種別に不良の割合をみると、スギで1%、楢類計で1%である。				
事業(会津・新渡戸地区以外)	生育状況	樹種	生育状況			
			良	普通	広葉樹化	不良
		スギ	12%	79%		9%
		ヒノキ	22%	57%	2%	9%
		マツ				
		カラマツ		59%		31%
		その他		100%		
		計	15%	73%	1%	11%
		樹種別に不良の割合をみると、スギで9%、ヒノキで11%、カラマツで51%、楢類計で12%ある。				

(注)生育状況の基準
 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(栃本園管保院における節級別限界生育立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えているもの。
 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分
 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。
 (広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)

(注)生育状況の基準
 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数(栃本園管保院における節級別限界生育立本数で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えているもの。
 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分
 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生育立本数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。
 (広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)

事業コスト削減の可能性
 今後の除伐に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。
 また、枝打に当たっては、生育及び採出条件の良い箇所を優先して選木することによりコスト削減を図る。

景観への配慮
 適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地景景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。

関係者の意見・意向
 周辺の自然的な山林と同様の生育をしており、所在町町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が小さく、引き続き道業作業の計画的な実施を要望している。

	留意事項
期中評価実施地区の林分についての対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該地区の種々の契約地の生育状況を見ると、一部広葉樹林化した林分及び植栽木の生育が遅れている林分が存在するものの、契約地全体としては植栽木が固調に生育しつつある一方で、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発現を図っていく。 また、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ雑伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。 枝打については、生育状況のよい区域へ重点化する等によりコスト削減を図る。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検証内訳を参考にして、適宜な保育管理に努める。

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

事(業)の進捗状況	生 育 状 況	生 育 状 況				
		良	普通	不良	計	
事(業)の進捗状況	生 育 状 況	樹 種	良	普通	不良	計
		スギ	16%	80%	4%	100%
		ヒノキ	21%	73%	6%	100%
		カラマツ	19%	81%		100%
		その他		100%		100%
計	18%	77%	4%	5%	100%	
樹種別に不良の割合をみると、スギで4%、ヒノキで6%、		樹種計で5%である。				
関東整備局 平成5年度契約地						
契約件数・面積及び植栽面積	契約面積 676ha (会津・新潟地区 44ha、会津・新潟地区以外 632ha)					
森林・林業情勢、農山村の状況、その他の社会情勢の変化	スギ 69ha ヒノキ 187ha カラマツ 36ha その他 15ha (うち会津・新潟地区 18ha)					
公益的機能からの重要性及び貢献度、関連施設整備状況	関東整備局管内の郡道府県内における民有林のうち未立木地の面積は近半はほほぼぼ荒れ状態にある。そのうち、保安林内外は不詳であるものの、現在なお14万6千ha程度存在し、引き継ぎ難林造成が必要である。 関東整備局管内の郡道府県内においては、減少傾向にある。不在村者所有森林のうち不在村者所有森林の面積は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約2割を占めており、また、そのうち約5割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林規模別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 関東整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、公有主体による人工造林面積の占める割合は全国平均の比値であるものの、増加傾向にあり、公有主体の果たす役割は引き続き大きい。					
天竜川水系船羽ダム、利根川水系五十里ダム等に係る流域(集水区域)内に当該契約面積のうち60%が存在している。湖島水道等の水道施設に係る流域(集水区域)内に当該契約面積のうち18%が存在している。						

(注)生育状況の基効
 良：植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数(森林区画)に於ける熟成別樹種別生立木数で、以下同じ。以上で、かつ、樹高が同種の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。
 普通：植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数以上で、かつ、樹高が同種の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分
 (a) 植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数以上であるが、樹高が同種の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b) 植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数未満であるが、樹高が同種の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c) 植栽木の1ha当たり成立木数が限界生立木数未満で、かつ、樹高が同種の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d) 広葉樹化した株分のもの。
 (広葉樹等の後生天然性樹木が置率を占める株分)

事(会)の進捗状況(区)	生育状況	生育状況				計
		良	普通	広葉樹化	不良 生育遅れ	
スギ	100%				100%	
ヒノキ						
マツ						
カラマツ						
その他						
計	100%				100%	

(注)生育状況の基準
 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が基準生育立木数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えていない。
 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が基準生育立木数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分
 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が基準生育立木数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が基準生育立木数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比べて0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が基準生育立木数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化したもの。
 (広葉樹等の後生天然植栽木が過半を占める林分)

事(会)の進捗状況(区以外)	生育状況	生育状況				計
		良	普通	広葉樹化	不良 生育遅れ	
スギ	22%	72%	8%	6%	100%	
ヒノキ	21%	73%		6%	100%	
マツ						
カラマツ	19%	81%			100%	
その他		100%			100%	
計	20%	73%	1%	4%	100%	

(注)生育状況の基準
 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が基準生育立木数の平均的な山林と比べて1.2倍を超えていない。
 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が基準生育立木数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。
 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分
 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が基準生育立木数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が基準生育立木数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比べて0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が基準生育立木数未満で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化したもの。
 (広葉樹等の後生天然植栽木が過半を占める林分)

事後コスト削減の可能性
 今後の伐採に当たっては、適期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。
 また、枝打に当たっては、生育及び採出条件の良い苗木を優先して選木することによりコスト削減を図る。

景観への配慮
 適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地域景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等不材を利用した工法の採用を進めている。

関係者の意見・意向
 周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所定町村及び採出相手方からの機能発揮への期待が大きくなり、引き続き道州作業の計画的な実施を要望している。

	留意事項
期中評価地区の林分についての対応	<p>・ 当該地区の個々の契約地の生育状況を見ると、植栽木が原則に生育しつつある林分がほとんどであり、適切な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。</p> <p>なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分や広葉樹林化しつつある一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じ除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。</p> <p>枝打については、生育状況の長い区域へ重点化する等によりコスト削減を図る。</p> <p>・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にし、適切な保育管理に努める。</p>

項目別取りまとめ表（案）（期中評価委員会検討資料及び委員の意見を取りまとめたもの）

東口評証実施地区名	関東整備局 平成10年度契約地		契約件数64件 面積面積 (うち会津・新潟地区 84ha)	契約面積 842ha (会津・新潟地区162ha、会津・新潟地区以外673ha) スズ 178ha ヒノキ 319ha カラマツ 4ha その他 54ha - ha - ha 29ha)	関東整備局管内の郡道府県における私有林のうち純立木地の面積はほぼ横ばい状態にある。そのうち、保安林内外は不明であるものの、現在なお14万6千ha程度存在し、引き続き森林造成が必要である。 民間整備局管内の保安林以外の面積割合については、減少傾向にある。 民間整備局管内の郡道府県における私有林のうち不在村者所有森林は、平成12年から平成17年にかけて減少したものの依然として私有林面積の約2割を占めており、また、そのうち約5割は県外在住者で全国平均を上回っており、地域の森林の管理水準の低下が危惧される。 私有林面積の4割程度を占める林家の保有山林認別戸数をみると、1ha～10ha未満の林家が9割を占めているものの、面積は5割程度である。 民間整備局管内の公私営別人工造林面積のうち、森林農地整備センター等の公的営別による人工造林面積の占める割合は全国なみの比率であるものの、増産傾向にあり、公的営別の長たす役割は引き続き大きい。
	種	生育状況			
事(業)の進捗状況	生育状況	普通 82%	広葉樹化 1%	生育遅れ 9%	計 100%
	スギ	20%	1%	1%	100%
	ヒノキ	9%		9%	100%
	カラマツ				100%
	その他				100%
	計	12%		5%	5%
訂種別に不良の割合をみると、スギで1%、ヒノキで9%、樹種計で5%である。					
公益的機能からの重要性及び貢献度、長連公共施設の整備状況	<p>都田川水系都田川ダム、多摩川水系小河内ダム等に係る流環(集水域)内に当該契約面積のうち34%が存在している。</p>				
事(業)の進捗状況		<p>(注)生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数(森林調査標準における齢級別限界生立本数)で、以下同じ。)以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以下のものである。 不良：(a)～(c)は生育遅れ、(d)は広葉樹化に区分 (A)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して2.8倍未満のもの。(B)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(C)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、樹高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のものである。(D)広葉樹等の後生天然性樹木が過半を占める林分)</p>			

事業 の 地 況 区	生育状況	生育状況					
		良	普通	広葉樹化	不良 生育 遅れ		
（注）生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林回復係数）における動態別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、胡高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、胡高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ。(d)は広葉樹化に区分。 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、胡高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、胡高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、胡高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。 (広葉樹等の後生天然植栽木が過半を占める林分)	ス	31%	68%	1%	1%	100%	
	ヒノキ	10%	82%		8%		100%
	マ		100%				100%
	カラマツ		100%				100%
	その他						100%
計		14%	80%		6%	100%	

事業 の 地 況 区	生育状況	生育状況					
		良	普通	広葉樹化	不良 生育 遅れ		
（注）生育状況の基準 良好：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数（森林回復係数）における動態別限界生立本数で、以下同じ。）以上で、かつ、胡高が周辺の平均的な山林と比較して1.2倍を超えるもの。 普通：植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上で、かつ、胡高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上1.2倍以下のもの。 不良：(a)～(c)は生育遅れ。(d)は広葉樹化に区分。 (a)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数以上であるが、胡高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(b)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満であるが、胡高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍以上あるもの。(c)植栽木の1ha当たり成立本数が限界生立本数未満で、かつ、胡高が周辺の平均的な山林と比較して0.8倍未満のもの。(d)広葉樹化した林分のもの。 (広葉樹等の後生天然植栽木が過半を占める林分)	ス	31%	68%	1%	1%	100%	
	ヒノキ	10%	82%		8%		100%
	マ		100%				100%
	カラマツ		100%				100%
	その他						100%
計		14%	80%		6%	100%	

事後の跡伐に当たっては、道期に実施することや植栽木の成長に支障のない広葉樹等は保残するなど、針広混交林等の造成を目指すことによりコスト削減を図る。
また、枝打に当たっては、生育及び伐出条件の良好な箇所に厳選し、主伐を想定して選定することによりコスト削減を図る。

景観への配慮
適切な森林整備の実施により、人工林の景観として良好な地味景観の形成に寄与している。なお、作業道開設等においては景観と調和する間伐材等木材を利用した工法の採用を進めている。
関係者の意見・意向
周辺の平均的な山林と同様の生育をしており、所在市町村及び契約相手方からの機能発揮への期待が大きく、引き続き道期作業の計画的な実施を要望している。

留 意 事 項	
期中評価実施地区の林分についての対応	<p>当該地区の個々の契約地の生育状況をみると、植栽木が順調に生育しつつある部分が多くあり、除伐等を行うなど、適正な保育管理を行い、水源かん養機能の発揮を図っていく。</p> <p>なお、植栽木の生育が遅れている一部の林分については、今後の成長を見極めつつ、林況に応じて除伐を見合わせるなど針広混交林等への誘導等を実施する。</p> <p>攻打については、生育状況のよい区域へ重点化する等によりコスト削減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の期中評価以降に被害等により8haの改植を実施しているが、その箇所については適切な保育等に努めることが求められている。 ・ 過去の契約地の事業実績や評価検討内容を参考にし、適切な保育管理に努める。